

キリスト教神秘主義者の信
仰における病と救いについ
て 第6部 キリスト教初期共
同体の病と信仰 眼病 (失明)

小泉友美
KOIZUMI Tomomi



目次

キリスト教初期共同体の病と信仰 眼病(失明) 1

キリスト教初期共同体の病と信仰 眼病(失明)

新約聖書成立後の1世紀後半から3世紀までに活躍した、代表的な初期キリスト教神学者達のテキストを選択して、キリスト教初期共同体における病と、キリスト教信仰による救いと癒やしについて、特に視覚障害と眼の病に焦点を当てて紹介してゆきたいです。

聖書における病気について

聖書には様々な病気が出て来ます。旧約聖書において、心身障害は、神罰やカミの呪いによるものとされ、旧約聖書の申命記において、人間の日頃の悪い行いによって、カミは肺病、熱病、赤錆病を持って懲らしめるといいます。(申命記 28・21-17) レビ記においては皮膚のただれの様な皮膚病は、共同体より汚れた者としてみなされていました。(レビ記 13・14, レビ記 13・43-44) 狂気はカミの呪いとして、人間の精神を錯乱させて、さらに視覚障害にするといいます。(申命記 28・28)

新約聖書においての病気とは、不純であり、貧困の象徴で、ハンセン病の様に重い皮膚病の患者達は普通の社会から疎外されて生きていましたが、(ルカによる福音書 17・11) キリストはカミの子として、天の恩恵を受けた者として、傷ついた人々を癒す存在(ヒーラー)として活躍しました。中風や目の不自由な病人達(ルカによる福音書 5・17)をキリストに預けて、出血で苦しんでいる女性達(マルコの福音書 5・28)を治し救いました。この様に、新約聖書における病人達は、普通の社会から疎外されて、神罰を受け呪われた存在として打ちのめされる存在としては描かれずに、キリストの愛によって救われ、癒やされて生きた事が強調されています。

聖書における眼病と視覚障害については、旧約聖書においては、失明とは人間を恐怖と絶望のどん底へと貶める病気であり(レビ記 26・16) 老化による眼の衰弱と不意の事故による失明(トビト記 2・10)等多くの描写があり、新約聖書においてはイエス・キリストがカミのヒーラーとして、多くの視覚障害者達の視力を回復させました。(マタイの福音書 11・5,15・30,31・21-14 ルカによる福音書 7・21-22)

新約聖書における医者であるキリスト

新約聖書において、キリストが十字架にかけられて死んだ事で、人間の生まれについての罪、腐敗、死、悪魔の脅威は打ち壊されて、キリストの死の中で旧い人間は壊されて、キリストの復活の中で、人間は新生の新しい命を与えられました。キリストは自分が苦しんで受けた傷によって、苦しんでいる民衆を救い、病気を癒す事ができます。キリスト

トは最良の医者、偉大なる医者、眞の医者、医者の中の王子であり、魂と肉体におけるすべての人間の苦痛を癒す事ができます。(マタイの福音書 10・ 1) キリストは慈愛に満ち溢れた医者であり、その癒やしはすべての人々に与えられました。キリストは主に社会においてみなされている人々に熱心に接しました。その癒やしの態度はファリサイ派の人々にとって、挑発的な態度とみなされました。キリストが社会から見捨てられた人々に接する事は、旧約聖書内の預言者イザヤの言葉にある様に、キリスト自身が靈的な医者として活躍する事です。" 主の靈が私の上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主が私に油を注がれたからである。主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。" (ルカによる福音書 4・ 18) この様にキリストの関心は、人間の魂と肉体を救う医師として、幸せで健康な人々に向けられるのではなく、苦しんでいる人々に向けられます。" 医者を必要とするのは丈夫な人では無く、病人である。私が来たのは正しい人を招くためでは無く、罪人を招くためである。" (マルコによる福音書 2・ 17)

キリスト教初期共同体テキストにおける医者であるキリスト

• アンティオキアのイグナティオスによる靈的かつ肉体的医者であるキリスト

" たった独りの医者しかいない。キリストは靈的かつ肉体的である医師であり、聖母マリアより生まれしカミであるキリスト。"

" 医者の役割とは、絶望した人々、不治の病、または世俗の悦楽によって堕落した人々を救う事であり、私達の医師であるイエス・キリストは情熱によって失われてしまった節約を私達に取り戻させて、その叡智を持って癒やしてください。そしてキリストは罪を赦し、希望の救いを与えてください。何故ならば、医者達の使命とは、病人達が悦楽に流されないように注意を促す事です。"

ii) ナブルスのエスティノス(殉教者エスティノス)による叡智によって癒やすキリスト

" あなたの心の盲目性とあなたの魂の失明(無分別性)について。もしもあなたがお気づきになるのであれば、あなたは癒やされる事が出来ます。医者(キリスト)にすべてを委ねなさい。この医者はあなたの心と魂にメスの切り込みを入れるでしょう。この医者はどなたですか?それは叡智を通して癒すキリストです。"

ナブルスのエスティノス(殉教者エスティノス)は、2世紀初頭にパレスチナのナブルスに生まれ、165年頃にローマで亡くなりました。キリスト教弁証家であり、哲学者であり

ました。この引用は、復活に関する論文より来ており、エスティノス自身の作品では無いと言われているが、2世紀後半に流行していた肉体を軽蔑していたグノーシス派に対抗して、キリストの復活における肉体の復活を強調しています。

III) アンティオキアのテオフィロスによる天上の医者

"医者に頼らずに治る病はありません。あなたは天上の医者から確かな保証を与えられています。カミに頼りなさい!"

アンティオキアのテオフィロスは、169年から183年迄アンティオキアの教皇でした。異教徒として生まれ、キリスト教徒への改宗の後、聖書研究に生涯を捧げました。

この引用は、テオフィロスの異教徒の友人に宛てたキリスト教を擁護する本である、アウトリュコスへの弁明から来ています。旧約聖書の引用から成り立ったこの著作は、カミの靈感を受けた書として、キリスト教の真理性を主張しています。

VI) ディオグネトスの慈悲の医者

"私達の養育者であり、父であり、教師であり、助言者であり、医者であり、叡智であり、光であり、名誉であり、栄光であり、力であり、人生であるキリストの慈悲の信仰によって、私達は口にするもの、身に纏うものの憂いは無くなります。"

ディオグネトスという人物は、恐らく2世紀に実在した人物という推定ですが、詳しく事はよく解らず、この引用はディオグネトスへの手紙という書簡の中で、キリスト教信仰への入門として、世界の魂となるべくキリスト教徒の役割と、キリスト教の根本的な問題に焦点を当てています。

• リヨンのエイレナイオスの導きの医者

"医者の役目とは、無知な人々を導く事であって、既に他人を癒す力を持って命を与える人々は必要ない。キリストの使徒達の使命は、人生の道に迷った人々に手を差し伸べる事であって、また視覚障害者を導く為に腕を貸して、口の聞けない人々に自信を与えて、その他の病人達を癒す事であります。医者は病人達に癒しを与えて、キリストも同じ様に癒やしを与えます。"

リヨンのエイレナイオスは2世紀のキリスト教神学者であり、司教としてキリスト教信徒達を正しいキリスト教生活と信仰へと導く為に著作活動をしました。この異端反撥の

著作において、キリスト教共同体を乱す異端に反撥して、自分の信者達を導こうとした。

キリスト教初期テキストによる眼病と盲目

- ヘルマスによる倒錯精神の盲目性について

140年頃、ローマにおいて、ヘルマスという聖パウロの弟子一人とされるキリスト教一信徒が著述したヘルマスの牧者(2世紀前後)において、幻、戒律、そして寓話の3部から構成されるこの書は默示録的な文体を持っています。邪悪(倒錯)な精神によって、人間は精神的に盲目化されてしまい、正常な思考が出来なくなってしまうといいます。

ii) 使徒アポロニアによる無知の盲目性について

249年頃に殉教した使徒アポロニアのアポロニアの殉教者の書によると、もしもキリストの教えとその言葉の光による天上の恩恵に心が向かないのであれば、まるで愚かな人間に話しかけるのと同じ様であり、光は心に射る事が無いと言います。そして、数多の無価値な言葉を耳にしなければ精神の盲目性を逃れ、正しい答えが見つかると言います。

iii) ナーブルスのエスティノスによる刑罰と魂の盲目性について

2世紀のギリシャ系キリスト教神学者のナーブルスのユスティノス(100?-165)は、現在のパレスチナ自治区のナーブルスの異教徒出身で、グノーシス教をキリスト教の正統な信仰を歪めるものとして、厳しく弾圧しましたが、ローマ教帝のキリスト教擁護を求めたキリスト教弁明の書において、魂の無知に頼る盲目性によって、人間は罪を犯し罰されると強調しました。

- アンティオキアのテオフィロスによるカミの視覚と盲目性について

2世紀のギリシャ系のアンティオキア教会の7代司教のアンティオキアのテオフィロス(169-183?)は、キリスト教弾圧にもめげずにキリスト教信仰を著作として記し続け、このアウトリュコスに送るの著作は第3巻からなるキリスト教の弁明書であり、魂の両眼で良く見る事、そして、心の両耳で良く聞く事が最重要視され、肉体の両眼でのみ見る人々は、この地上の物事の区別(例えば、暗闇と光、白黒の対立等)しか出来ません。ベー

ルですっぽりと覆われてしまった両眼が太陽の光をも見る事が出来無い事は、罪で暗闇の中に閉ざされた両眼がカミを顕る事が出来無い事と同じであります。

- テルテュリアヌスによる罪による罪による視覚と盲目について

2世紀のラテン語圏のキリスト教神学者の一人、テルテュリアヌス(160?-220)は現在のチュニジアに生まれ、ローマにおいて洗礼を受けた後に、厳格なキリスト教正統主義を主張して、異端からキリスト教を擁護する為の著作を発表してゆき、テルテュリアヌスの弁明は、キリスト教徒が、ローマ帝国における他の宗派の者と同等の扱いをされる様に願って書いたものです。この書では、罪による盲目というテーマが強調されて、罪によって分別性、知性、視覚、聴覚が失われてゆく事、または美しい女性を観る事で誘惑されない様に、あえて自分の意思によって目を閉じて、欲望を盲目化させと言います。

靈的治療について

初期キリスト教においての靈的治療とは、まずキリストへの信仰心と悔い改めをする事で、その改心の道で靈的医師(ヒーラー)のキリストに会い、心からの祈りをする事で癒されたと言います。(マタイの福音書7・7-8) その癒やしの恩恵を得るには、様々な苦しみの体験を通して質素さ、謙虚さ、注意深くなる事が出来、人間はその弱さの中では一人では何も出来ず、ただひたすらに医者であるキリストによりすがる事で(ヨハネの福音書15・5) 平和を得られます。最良の薬とは祈りです。

ヘルマス著作のヘルマスの牧者によると、キリストに対して誠意を持って仕えるのであれば、内面の罪から解放されて、悪霊による様々な障害から解き放されるといいます。この俗世の数多の欲望より自由になれば、心は清められると言います。

ナーブルスのユスティノスのキリストにおける靈的治療とは、キリストが十字架にはりつけたれた苦しみによって、人間は既に罪から解放されて癒されて、平和が与えられました。その事を胸に留めて、貧しき人々を家に招き、食事を共にする事で、心身の苦しみより解き放たれて、更にキリストの栄光に包まれると言います。リヨンのエイレナイオスは、キリストの使命は人生の道にはぐれた人々をキリストの神名によって癒やし、導く事にあると言います。キリスト教の靈的修行の道において、魂と両眼で良く見つめ、祈る事は大切な事と、このキリスト教初期共同体のテキストは指摘しています。失明等の視覚障害においての不安なる闇は、新約聖書においては神罰では無く、キリストと言うヒーラーとの出会いによって、少しずつ光へと導かれると言っています。この様にキリストの靈的治療とは、信心、祈りによってなされます。

キリスト教神秘主義者の信仰における病と救いについて 第6部 キリスト教初期共同体の病と信仰 眼病 (失明)

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
